Save the Children

子どもに対する戦争

パレスチナ・ガザ地区とレバノン：３年が経過して

ガザ地区でセーブ・ザ・チルドレンが運営する「こどもひろば」で、母親と過ごすビサンさん*（14歳）

はじめに

戦争が始まってから3年。ガザ地区の子どもたちは本来あるべき子ども時代を奪われています。学び、遊び、自らの未来を思い描くはずだった日々は、暴力、喪失、深刻な食料不足、そして避難の経験によって塗り替えられてしまいました。

ガザ地区では、少なくとも2万1,289人の子どもが命を落とし、4万4,500人が負傷し、今なお行方不明の子どもたちもいます[1]。停戦合意後も、子どもたちはイスラエル軍による爆撃や銃撃への恐怖と隣り合わせの生活を強いられています。また、約62万5,000人の学齢期の子どもが3年間にわたり教育を受ける機会を奪われています。2025年の深刻な飢饉の後も、約7万4,200人の子どもが極度の飢餓や栄養不良に直面しています[2]。

さらに、ヨルダン川西岸地区でも、子どもたちは組織的な嫌がらせ、軍事的な攻撃、恣意的な拘束、住宅破壊などが常態化した抑圧的な環境に置かれ、命の危険にさらされるとともに、生活に不可欠なサービスへのアクセスを断たれています。

レバノンの子どもたちもまた、暴力と不安定な状況の犠牲となっています。2023年10月以降、数百人の子どもが死亡・負傷し、さらに多くの子どもたちが深刻な権利侵害を経験しています。イスラエル軍による学校や病院、市民のための施設などへの攻撃は、教育、保健医療、そして子どもたちの拠り所となる安全な場所へのアクセスを妨げ、多くの子どもたちが学校に通えず、基本的なサービスも受けられない状況を生み出しています。

人道支援ニーズが急増する中、セーブ・ザ・チルドレンとパートナー団体は地域全体で、緊急支援とコミュニティの復興支援を通じて子どもたちと家族を支え続けています。

中東の紛争下に暮らす子どもたちへのあたたかいご寄付と変わらぬご支援に心より感謝申し上げます。

この3年間、みなさまのご協力により、以下の地域で紛争の影響を受ける人びとに支援を届けることができました[3]。

ガザ地区：	ヨルダン川西岸地区：	エジプト：	レバノン：
230万人	16万2,400人	1万8,000人	700万人

「ここに来ると、生まれ変わったような気持ちになります」

－アマニさん*（14歳、ガザ地区）

アマニさん*は、今直面している困難を乗り超えた先にある未来を夢見ています。しかし、ガザ地区で暮らす多くの子どもたちと同様に、絶え間ない緊張や先行きの見えない不安の中で生活してきました。セーブ・ザ・チルドレンが開設する「こどもひろば」での活動を通じて、自分自身を表現し、ストレスを発散し、困難に立ち向かう力を育んでいます。

ガザ地区およびヨルダン川西岸地区での支援活動

セーブ・ザ・チルドレンは1953年からパレスチナの子どもたちと家族を支援してきました。現在、300人を超える職員が信頼できる現地パートナー団体とともに、ガザ地区およびヨルダン川西岸地区を含むパレスチナ全域で活動を続けています。

ガザでは、深刻な治安悪化や組織的な暴力、人道支援の妨害、飢餓、社会基盤の崩壊が続き、西岸地区でも緊迫した状況が続いています。そうした厳しい環境の中でも、私たちは支援活動のあり方を柔軟に調整しながら、子どもたちへの支援を届け続けてきました。

過去3年間で、私たちはパレスチナ全体において**約130万人**（123万2,215人）の子どもを含む**約240万人**（245万5,358人）を支援しました。

ガザ地区

2023年以降、229万2,967人を支援（うち114万8,483人が子ども）

現金・食料支援：
61万2,144人を支援

ガザ地区における国際NGO最大規模の現金支援事業を通じて49万7,505人に現金を提供しました。家族がそれぞれ必要としているものを自分の意思で選び、尊厳を保って課題に対応できるよう支援しました。

59人の若者が持続可能で環境に配慮した小規模事業を立ち上げられるよう支援しました。さらに、コミュニティ主導の取り組みにより212件の新たな雇用を創出し、188人の小規模事業主の生計基盤の強化にもつながりました。

水・衛生支援：
107万3,522人を支援
（うち49万6,219人が子ども）

避難所で暮らす家族に対し、約6,100万リットルの安全な飲料水を提供しました。

420基のトイレを設置し、48ヶ所で2,279回の啓発セッションを実施し、安全な衛生習慣を推進しました。

環境衛生キット1,100セット、家族向け衛生キット3,639セット、月経衛生キット2,674セットを配布し、家族の健康維持を支援しました。

保健・栄養：
43万3,644人を支援
（うち20万2,847人が子ども）

デル・アル・バラフおよびハン・ユニスにある2ヶ所の一次医療クリニックと、ガザ地区全域の13ヶ所の母子支援エリアを通じて、保健・栄養、水・衛生、子どもの保護支援を統合的に提供しました。

5万739人の子どもと1万9,029人の妊娠中・授乳中の女性の栄養状態を確認し、3,617人の子どもに急性栄養不良の治療を提供しました。

教育：
4万3,200人の子どもを支援

60ヶ所の仮設学習スペースと44ヶ所の幼児教育センターを運営し、ガザ地区において教育分野を牽引する国際NGOとして活動しました。

1万2,527人の子どもに学習キットを提供して認知発達を支援するとともに、養育者や教員に心理的応急処置の研修を実施しました。

子どもの保護、精神保健・心理社会的支援：
12万8,705人を支援
（うち10万1,224人が子ども）

16ヶ所の「こどもひろば」を運営し、2万1,740人の子どもと養育者に精神保健・心理社会的支援を提供しました。

514件の高リスクケースに対応し、家族の追跡および再統合を含むケースマネジメント支援を実施しました。

スタッフの声

「地域に根ざした活動や、体系的に遊びやライフスキルを学ぶプログラム、養育者支援グループ、個別カウンセリングを通じて、**子どもたちが安心して過ごせる感覚や日常性を取り戻し、希望を取り戻せるよう取り組んでいます**」

―アリ・シャカリア
（セーブ・ザ・チルドレン ガザ地区 子どもの保護・精神保健・心理社会的支援プログラムマネージャー）

ヨルダン川西岸地区

2023年以降、16万2,391人を支援（うち8万3,732人が子ども）

- ヨルダン川西岸地区における紛争の影響を受けた**1万3,043人**以上に対し、現金支援、水・衛生支援、子どもの保護支援、精神保健・心理社会的支援、教育支援を提供しました。
- **20ヶ所の「こどもひろば」**を運営し、子どもたちとその養育者が、心理的応急処置、心理療法、イスラエル当局に拘束されていた子どもたちへの社会復帰支援を含む、子どもの保護支援を利用できるよう支援しました。
- **52の地域団体**を通じて基礎教育プログラムを実施し、**28ヶ所のセンター**で幼児教育サービスを提供しました。また地域の学校へ**182台の電子黒板**を配布しました。
- 軍事行動によって深刻な影響を受けた家族へ**100基の貯水タンク**を配布するとともに、トバス県（ヨルダン川西岸地区北東部）において太陽光発電による井戸システムを設置し、現在50世帯以上の生活を支えています。

ヨルダン川西岸地区北部にあるセーブ・ザ・チルドレンが支援する教育センターで、感情表現のアクティビティに参加する子どもたち。

エジプトでの支援活動

過去3年間にわたり、セーブ・ザ・チルドレンとパートナー団体は、ガザ地区からの医療避難者や避難を余儀なくされたパレスチナ人家族を含む**1万8,000人以上のパレスチナ人**を支援しました。支援内容は以下のとおりです。

- **9,964人に現金支援**を提供し、最も緊急性の高いニーズに対応できるよう支援しました。
- **2,679人に対し6,082件の医療サービス**を提供しました。これには、診察、検査、投薬、外科手術、理学療法、母子保健サービス、補助具の提供、専門治療が含まれます。
- **2,366人の子どもに教育支援**を提供しました。
- **5,579回の精神保健支援**セッションと**400回のグループカウンセリング**を実施し、**子どもたちへ1,784セットの精神保健支援キット**を配布しました。

レバノンでの支援活動

セーブ・ザ・チルドレンは1953年からレバノンで活動しています。私たちは、紛争の激化によって影響を受けた家族への支援を継続しています。2026年3月には、レバノン南部で約100万人が自宅からの避難を余儀なくされ、学校やコミュニティ施設へ身を寄せました。

過去3年間で、私たちはレバノンにおいて**699万9,301人（うち351万7,876人が子ども）**を支援しました。支援内容は以下のとおりです。

278万8,570人に対し、水・衛生支援を提供しました。これには、損壊した施設の修復、衛生啓発セッションや衛生キットの提供、避難所で暮らす家族への給水支援が含まれます。

10万9,688人に対し、現金支援および食料支援を提供しました。

16万6,494人に対し、マットレス、毛布、枕、ヒーター、ソーラーライトなどの生活必需品と安全な避難所を提供しました。

5,256人に対し栄養支援を提供しました。これには栄養状態の確認や医療機関への紹介が含まれます。

6万9,251人の子どもに教育支援を提供しました。これには、現地パートナー団体と連携したコミュニティセンターや学習拠点での学習支援が含まれます。

2万9,610人の子どもに対し、子どもの保護および精神保健・心理社会的支援を提供しました。これには、子どもたちが安全に遊べる場所の設置、こころの健康への支援、必要に応じた専門支援への紹介が含まれます。

「学校へ戻って先生や友だちに会ってまた勉強したいです」

－ナヤさん*（6歳、レバノン）

ナヤさん*とその家族 は、2026年3月にレバノン南部での紛争から逃れるため避難を余儀なくされました。セーブ・ザ・チルドレンは、避難所で食料、衛生用品、ベッドを提供したほか、子どもたちを対象とした精神保健・心理社会的支援セッションを実施しました。

現地パートナー団体の紹介

私たちの支援活動は、最前線で活動する現地パートナー団体との協働なしには成り立ちません。
セーブ・ザ・チルドレンは、資金提供、研修、調整支援を通して、現地パートナー団体を支え、子どもたちに緊急かつ命を守るために不可欠な支援を届けています。

現地パートナー団体との協働によって実現した取り組みの一例をご紹介します。

- ガザ地区では、現地パートナー団体であるMA'ANが3地域において30人のメンバーからなるコミュニティ・リーダーシップ委員会を設立しました。これらの委員会は、私たちが支援する家族と地域のサービス提供者をつなぐ信頼できる橋渡し役となり、新たなニーズの把握、地域課題への対応、そしてより効果的かつ持続可能な支援活動に向けたコミュニティ参画を促進しました。
- レバノンでは、教育省（MEHE）およびMouvement Socialとの連携により、Teaching and Learning Hubを設立しました。これにより、脆弱な状況にある子どもたちに学習支援と社会性・情緒的学習（SEL）の機会を提供し、学習成果とウェルビーイングの向上を支援しています。

ガザ地区およびレバノンのパートナー団体の皆さまに
心より感謝申し上げます。

安全とセキュリティ上の理由から、すべてのパートナー団体を掲載しているわけではありません。

皆さまからのご寄付により、ガザ地区をはじめとする中東危機の影響を受けた子どもたちへ、必要な支援を届けることができています。

2023年10月以降、寄付者、サポーター、パートナーのみなさまの温かいご協力により、中東地域全体での人道支援活動のために約**2億6,200万**米ドルのご寄付が寄せられました。

中東緊急人道支援への
ご寄付総額：

2億6,200万米ドル

うち、ガザ地区および
ヨルダン川西岸地区への
ご寄付総額：

1億2,700万米ドル

ガザ地区でセーブ・ザ・チルドレンから衛生用品と防寒着が入ったキットを受け取るジャナさん*（11歳）

今後にむけて

ガザ地区の子どもたちは、これ以上成長や学びの機会を失うわけにはいきません。今、子どもたちに必要なのは、**恒久的な停戦**と、教育、保健医療、栄養、保護サービス、そして安全な居場所へのアクセスです。必要不可欠な支援の提供が遅れれば遅れるほど、子どもたちや家族、地域社会に及ぶ長期的な影響は深刻なものとなります。

2027年に向けて、私たちは緊急支援中心の対応から、脆弱な停戦下で命を守るためのサービスを継続的に提供する支援へと重点を移しつつあります。また、現地パートナー団体主導のプログラムへの移行も進めています。

ガザ地区では、以下の取り組みを予定しています。

- **保健・栄養**

2ヶ所の地域の診療所と地域栄養支援の拠点を統合し、保健・栄養、子ども保護サービス間の連携体制を強化します。また、ガザ市および北部地域での3ヶ所目のクリニック開設も検討します。

- **教育**

ガザ地区の仮設学習スペースのほぼすべてが資金不足より閉鎖される中、基礎学力の習得や学習の遅れを取り戻すための支援、教員への継続的な指導・研修、教育省と共同開発したデジタル学習ツールの活用へと方向転換します。

- **子どもの保護、精神保健・心理社会的支援**

「こどもひろば」のネットワークを、2027年までに10拠点から5拠点へ再編します。一方で、残る各拠点ではケースマネジメント、精神保健・心理社会的支援、紹介サービスをさらに充実させていきます。

- **水・衛生**

緊急対応としての給水車による水の供給から、井戸の修復、水道網への接続、持続可能な水・衛生インフラの整備へと移行します。

エジプトとレバノンにおいても、引き続き子どもたちへの支援を行います。

- 暴力から逃れてきた家族に対し、現金支援、食料、安全な避難先、生活必需品を提供
- 子どもたちが安心して遊べる安全な場所を設置
- 精神保健・心理社会的支援を含む、保健・栄養、保護サービスを提供
- 子どもの幼児期の学びと発達を支援
- 若者が将来に向けたスキルを身につけられるよう支援

本レポートでご紹介した活動は、皆さまのご支援によって実現しました。

皆さまのご協力に
心より感謝いたします

ヌールさん*（4歳）と祖父。ガザ地区にて。ヌールさんはイスラエル軍の爆撃によって両親、姉妹、父方の家族を失い、自身も負傷したほか、聴覚および言語に障害が残りました。セーブ・ザ・チルドレンは、祖父がヌールさんを養育できるよう、ミルク、おむつ、現金支援を提供しました。また、セーブ・ザ・チルドレンの「こどもひろば」に併設された幼児クラスへ参加し、精神保健・心理社会的支援も受けています。

ガザ地区およびヨルダン川西岸地区では、人道危機が深刻化し続けています。皆さまからお寄せいただくあたたかいご寄付により、私たちは増大する人道支援ニーズに対応し続けることができています。

セーブ・ザ・チルドレンは、戦争の影響を受ける子どもたちとその家族に寄り添い続けます。過去3年間にわたりお寄せいただいた皆さまの力強いご協力と変わらぬご支援に、心より感謝申し上げます。

今後も、子どもたちやその家族に必要な支援を続けるため、引き続きご協力をお願いいたします。ご寄付はこちら ▶

Save the Children

発行：セーブ・ザ・チルドレン
2026年10月
www.savethechildren.net

注記

1. 2026年2月時点のユニセフおよびガザ保健省の報告によるものです。
2. 総合的食料安全保障レベル分類（IPC）が2026年7月に発表した報告書によると、2026年5月から2027年4月までの間に、5歳未満の子ども約74,200人が急性栄養不良の治療を必要とすると予測されています。
3. 支援を実施した人数には、複数年度にわたる活動における重複計上が一部含まれる場合があります。

写真提供：セーブ・ザ・チルドレン
*プライバシー保護のため、名前は変更されています。
金額はすべて米ドル表記です。